

## 「自分の考えを表現し、深めようとする子どもを育む」

大阪市立東粉浜小学校 研究部

## 1. 研究主題設定の理由

本校の児童は、大阪市学力経年調査の結果から、どの教科でも大阪市平均得点よりも高い得点となっている。このことから基礎的・基本的な学力は身につけていると考えられる。しかし個人の得点をヒストグラムに表すと、よく学習を理解している児童と十分に理解できていない児童とで二極化していることが分かった。このような児童がともに学びあい「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにするために、まずは一人ひとりの児童が自分の考えを表現できるようにし、そしてその考えをともに深めようとするのが大切ではないかと考え、主題を設定した。

## 2. 研究の趣旨

本年度は、自分の考えを表現し、深めようとする子どもの姿がどの教科でも見られるよう研究教科を限定せず、研究を進めていく。

昨年度の研究では、子どもが考えを整理したり、考えたことを表現したりする力を伸ばすとともに、表現した考えを比較検討精査などしながら自分の考えを深めようとする態度（練り上げる力）を養うために、子どもの「思考の可視化」をし「協働的な学び」が充実するような学習について国語科を中心に研究を行ってきた。思考ツールを使うなど子どもの思考を可視化することで子どもが自分の考えを整理したり広げたりしながら自分の考えを表現できるようになってきた。また協働的な学びを充実させるために、話し合い活動を工夫したり、ICT を活用したりして学習活動の工夫を図ることで、自分の考えを深めたり広げたりしようという姿が見られるようになってきた。本年度はどの教科でもこのような態度を養うために、基盤となる力である「言語能力」を育むことを中心に考え、特にその中でも「学びに向かう力、人間性等」を重点能力とし、この力の育成の手がかりとして、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を研究の視点とし進めていく。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、まずは目指す子ども像を設定した。

東粉浜小学校 目指す子ども像			
自分の考えを表現し、深めようとする子ども			
	①(思考力・判断力・表現力等)		②(学びに向かう力・人間性等)
	自分の考えを伝える		自分の考えを振り返る
低学年	理解した情報や感じたこと、想像したことなどを言葉を通じて表現し伝え合い		自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする子ども
中学年	自分の考えをまとめて伝える 理解した情報や感じたこと、想像したこと、形成した考えなどをまとめ、言葉を通じて表現し伝え合い		他者を認めつつ自分の考えを練り上げる 自己や他者を尊重しようとするとともに自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする子ども
高学年	自分の考えを多角的に精査し伝える 理解した情報などを多面的・多角的に精査・構造化し、自分の考えを言葉を通じて表現し伝え合い		自分、集団の考えを練り上げる 自分や集団のものの見方や考え方を発展・深化しようとする子ども

そして研究の視点を以下のように設定した。

#### 視点① 個別最適な学びのために

○1人1人に応じた指導の個別化を図る(自分の考えを持つ=対話の土台をつくる)

意図的なグループ編成やヒントカード、ワークシートの工夫を行ったり、自由進度学習や一人学びの時間を取り入れたりすることで誰もが自分の考えを持つことで対話を行えるような土台作りを行う。

#### 視点② 協働的な学びのために

○対話の活性化を図る

思考ツールを活用し子どもの考えを可視化したり、共同編集や話し合い活動を工夫したりすることで、対話が活性化し協働的な学びが充実することを図る。

#### 視点③ 一体的な充実のために

○ICTの効果的な活用を行う

GoogleスライドやGoogleクラスルーム、デジタルホワイトボードなど汎用的なアプリを使って(低学年の場合はSkyMenuでも可)、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実することを図る。

## 4. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 児童が資料を選べるようにしたり、思考ツールを活用したりすることが個別最適な学びを充実させ自分の考えを持つ手立てとなった。
- 考えたことをグループでさらに練り上げる時間をとるなど、小グループでの活動を効果的に取り入れることで児童が考えを深めようとするにつなげた。
- Google や Skymenu などのクラウドを活用することで、学びの記録も含めた他の児童の考えをいつでもどこでも見ることができた。これによって全体交流での対話が活発になり進んで、自分の考えを広げ深めようとする姿が見られた。
- ICT の効果的な活用方法を考えることで、児童だけでなく教員の情報活用能力の向上につなげた。

### (2) 今後の課題

- 深い学びを目指すためには、児童がどのような「見方・考え方」を働かせるのかを明らかにして単元構成を考える必要がある。指導者がこの視点を持って教材研究に取り組むようにする。
- 一人一台端末の活用によって、「情報活用能力」の育成にもつなげることができるので、育成したい「情報活用能力」についても発達段階に応じて整理していくようにする。